

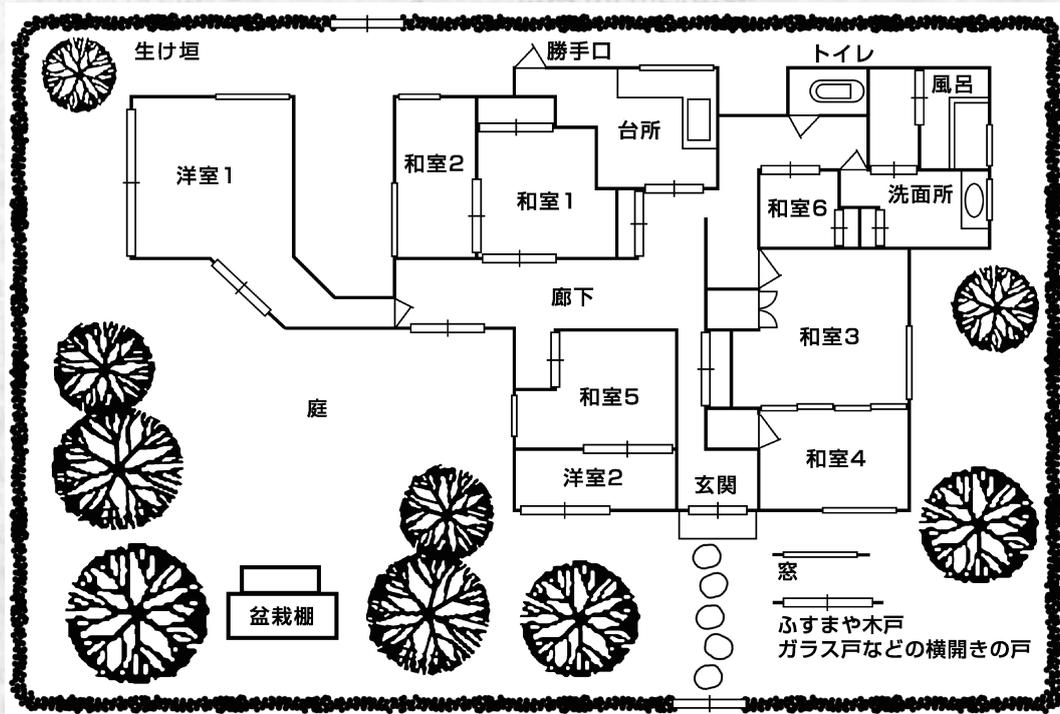
Player Handouts

【クトゥルフ神話TRPG クトゥルフと帝国】
補遺：プレイヤー資料

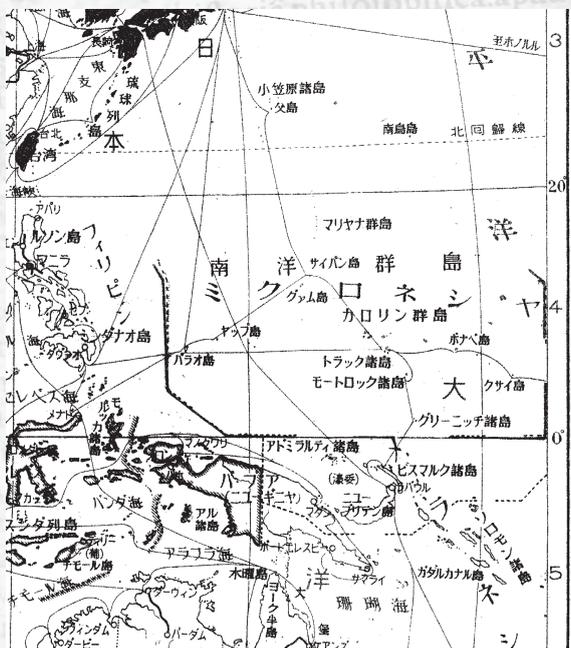
浅草の鬼

震災の被害甚大な浅草界
限にて夜な夜な鬼が現る
との奇妙な噂あり、死者
の肉を漁り、怪我人の胸
に刃を突き立てるなどと
の事であるが、その姿を
はつきり見た者はなく、
見せ物小屋から逃げ出し
た獣人ではないかとの憶
測する者もあり正体は未
だ不明、瓢箪池周辺にて
一時生活する人々は不安
な夜を過ごしている

(浅草十二階 プレイヤー資料「新聞記事」)



(銀座うずまき「四ッ谷の屋敷」)



(ボナベの摩人號「ボナベ島近海地図」)

mihi physicorum dogmatis... Epiphanium in confutatione... alijs nihil addant. Quae omnia... ad prima illius nulla secretionis... tatis formis & qualitatibus diuisas... Quae is, capite tua huius mediant... entionem, mihi; plus arice tub... uando enim illa plane Philo... tendis & bruta animantia sunt... Canis exemplis demonst... im herbarum vires cognitas... m; quod eius passu... cipitres Hieracium: Columab... Chelidonium ab Hirundine, non... tri folium ore tenens, quod desig... â docta, dicitur lauri foli... em Medicina inuentoriam, dicit...

Laurum sacram rececit dicarintq; Parietaria, quae... Perdices in ijs locis, vbi illa copiose progenit, vepi... Feniculum nobilitate credimus Serpentes: nam gustatu... aciem fucco... tales plantarum sp...

(一 通用)

元氣にしているかね、沙夜香。

私も東京に戻りたいのはやまやまだが、ボナベでまったくの新種を見つけた。この鳥はいったいどうなっているのか……霧の向こうの平原にしか、アレはいないのだ。

私の蝶は、本に大きな繭を作る。繭を放置しておけば、その中に琥珀がでさる。素晴らしい琥珀だ。輝きとともに発せられるメロディは私を魅了してやまない。

首狩り族ともうまくやっていると。そちらの方は心配ない。ヤツらは鳥の神を恐れている。今や、ヤツらは私の従順な下僕だよ。だが、いや、ひよつとして、ヤツらもこの世界の者ではないのかも知れない……。

(二 通用)

元氣にしているかね、沙夜香。

私はこの島から離れられない。新種の蝶はそれほどに素晴らしい。現地ですが、いくらカネを積まれても、出来のいい琥珀は手放すものか。出来損ないはいくつか商人に売ってやったが。

琥珀を見せるのは気がいいが、蝶を見せるのは勇気が要るよ。みんなが蝶を好きにわけではないし、繭はたいいていの人は嫌うからね。

何にせよ、もつと美しい素材が必要だ。素材が良ければ、より美しい琥珀がでさるとわかった……。

(三 通用)

元氣にしているかね、沙夜香。

鳥は離れられないと、以前に何度も書いたはずだ。しかし、私もお前にかいたい。

沙夜香、ボナベに遊びに来なさい。友達も連れてくるといい。何人でもいい。ここは楽園だ。

お前もさつと氣に入って、一生、暮らしたくなる……いや、一生ではなく永遠だ。実は私は不老不死の秘密を見つけたのだ。沙夜香も鳥に養われ、不老不死にしてやることができる。

追伸、島に来るなら、必ず女給のリオンを連れてきなさい。私にはあの娘が必要だ。

(ボナベの摩人號 プレイヤー資料1「男爵からの手紙」)

ご無沙汰しています。甲小路家で昔、お世話になつた鉄形様です。最近、ある筋からポナベに父君が逗留中という情報を入手しました。久しぶりに会いたかつたのですが、どうやら引きこもつておられるようで、まだ面会できていません。彼の様子はおかしいと思います。しかし父君からは、沙夜香お嬢さんかその知人がポナベに来ることがあれば、島まで案内するよう言いつかっています。私はしばらく前にトラツク島に赴任してきました。こちらの地理や情勢に明るく、陸軍の将校ですから、顔も利きます。南洋へお越しの際はぜひご連絡ください。ポナベまで一緒に来ます。こちらは治安が悪く、人食い人種や首狩り族などが跋扈するところもあります。くれぐれもお気をつけください。

(ポナベの摩人琥 プレイヤー資料2「少佐からの手紙」)

(ページ1)

あの蝶のような蜘蛛のような生き物は何なのだろうか？ しかも、ここは私のいた世界とは違う。この島に平原はなかったはずだ。どこか別な幻の世界にいるようだ。しかし、ポナベに度らうとすれば度れるようなので、問題は無い。今はあの蜘蛛が作り出す罠の方が問題だ。罠から出てきた琥珀に、私は正気を失いそうになった。

(ページ2)

蝶蜘蛛との契約が成立したように思える。アレには知性があつて、私の目的を理解している。人をおびき寄せ、アレにエサとして与える。そうすると私は琥珀を獲られる。

蝶蜘蛛を恐れ、首狩り族も手なづけた。ヤツらは蝶蜘蛛を神、私を神の代行人と認識しているようだ。

(ページ3)

首狩り族を使って、人間を罠の森に追い立てることにした。この地に足を踏み入れた者は、私の眼鏡にかなえば摩人琥になれる。そうでない者は、ヤツらに首を狩られるという寸法だ。

(ページ4)

私のコレクションを人に自慢したいものだ。回者人でもないが、白人ならもつといい。なるべく色の白い肌、美しい客人がもつと欲しい。多くの者は琥珀を見たあと、自分も琥珀になつてしまふ。つまり、常に新しい客人が必要というわけだ。

(ポナベの摩人琥 プレイヤー資料3「男爵の日記」)